

# 訪日外国人の国内周遊が航空需要に与える影響

(研究期間：平成28年度～)

空港研究部 空港計画研究室 主任研究官 黒田 優佳



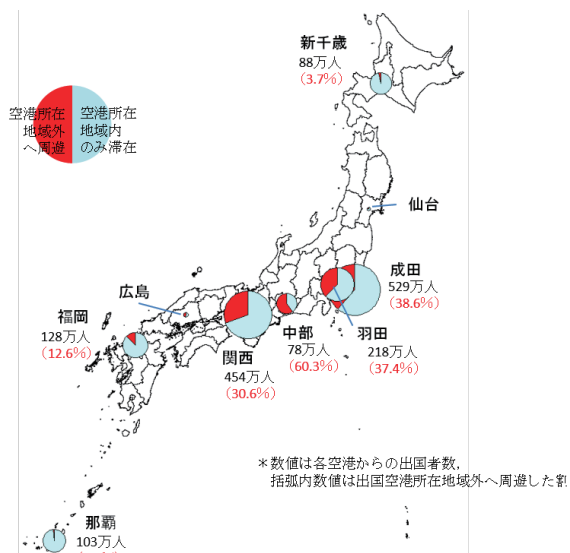
(キーワード) 訪日外国人、国内周遊、広域観光、国内航空旅客流動、航空需要推計

## 1. 研究の背景

日本政府観光局によると2018年の訪日外国人数は3,000万人を突破した。近年、訪日外国人は出国空港の所在地域内での滞在に留まらず、空港所在地域外へも周遊する傾向が高まっている(図参照)。航空政策検討の基礎資料となる航空需要推計モデル改善の一環として、将来の地方空港や地方路線に対する航空施策検討にも資するよう、訪日外国人による国内周遊と国内航空利用の実態把握を行い、国内航空需要への影響を分析した。

## 2. 訪日外国人の国内周遊の動向

国際航空旅客動態調査データによると、2015年には訪日外国人の約2割が入出国に異なる空港を利用しており、2005年、2010年と比較してこの傾向は高まっている。出国空港別の訪日外国人の国内周遊パターンを図に示す。出国空港所在地域外へ周遊した訪日外国人は、中部空港出国者では6割を超え、成田・羽田空港出国者では4割近くとなっている。



国内周遊に航空を利用する訪日外国人は2015年時点では全体の2%未満であり、バスや鉄道と比較して低い割合となっている。しかしながら、今後国内周遊が広域化・活発化すれば、航空を利用する訪日外国人は増加するものと考えられる。

## 3. 訪日外国人の国内航空路線別流動量

2015年度航空旅客動態調査データより推計した訪日外国人利用者数が多い航空路線上位10位を表に示す。上位10位は全て羽田・成田路線で、国内の主要空港間を結ぶ路線である。「シェア」は訪日外国人が全国内路線のうち当該路線を利用する割合であり、約半数がこの10路線を利用している。首都圏空港(羽田空港、成田空港)が国内周遊の拠点となっていることが伺える。

表 訪日外国人の利用者数が多い路線上位10位

順位	路線	訪日外国人旅客数(千人/年)	訪日外国人の割合	シェア	シェア累計
1	羽田-新千歳	102.8	1.1%	8.2%	8.2%
2	成田-新千歳	89.1	5.3%	7.1%	15.3%
3	成田-那覇	70.3	9.4%	5.6%	20.9%
4	羽田-那覇	65.0	1.2%	5.2%	26.0%
5	羽田-伊丹	64.7	1.2%	5.1%	31.2%
6	羽田-福岡	54.2	0.7%	4.3%	35.5%
7	成田-伊丹	45.3	10.1%	3.6%	39.1%
8	成田-福岡	44.6	4.0%	3.5%	42.7%
9	関西-成田	44.3	5.3%	3.5%	46.2%
10	中部-成田	37.2	11.0%	3.0%	49.1%

## 4. 今後の展開

訪日外国人による国内周遊及び国内航空利用の動向について、引き続きデータの集計・分析を行い、航空需要推計モデルへの反映に向けた検討を進める。

☞ 詳細情報はこちら

1) 国総研資料 No. 1044, No. 964

<http://www.ysk.nilim.go.jp/kenkyuseika/kenkyusyosiryou.html>